



性欲があると
変身できない
変身ヒロインが...



いた…

今日家出るの
遅れたから
見れないかと
思ったけど

俺の朝は
彼女を
見ながら
始まる

月城更
(つきしろさら)

隣のクラスだが
去年委員会が
一緒だった
こともあって
時々話したりもする

…のだが…

あ
あれっ



丁度
彼女の友達
が離れたので
俺は挨拶も
せずに
切り出した

…ずいぶん
思い切ったな

何が

何がつて

髪の色
だけど…



言い忘れていたが
彼女は俺が
密かに憧れている人で、





今は緊迫した様子で
俺の手を引いている

……………なんで？

連れてこられたのは、
3階のトイレだった。
クラスの入った
教室は2階まで、
今この階は無人のようだった。

こんな所で
ごめん

……いいけど
……何？



高山くんさっき
私の髪の色が
いつもと違うって
言っただけ？

い、
言っただけ

何色？

白？いや
少しピンク
がかってるかな…

つつつ！！！！



お誂え向きだな

その時、見たことのない生き物が
始めからそこにいたかのように
声をかけてきた。





うさぎ...いや
猫?..?..?

更
こいつだ

こいつにお前の欲を
取り払ってもらえ

なっ……!!



今伝令を受けた
発生点はここから
五百メートル先

三十分後に
行動可能状態になる
それまでに変身
できなくてはいけない

わわかってるけど



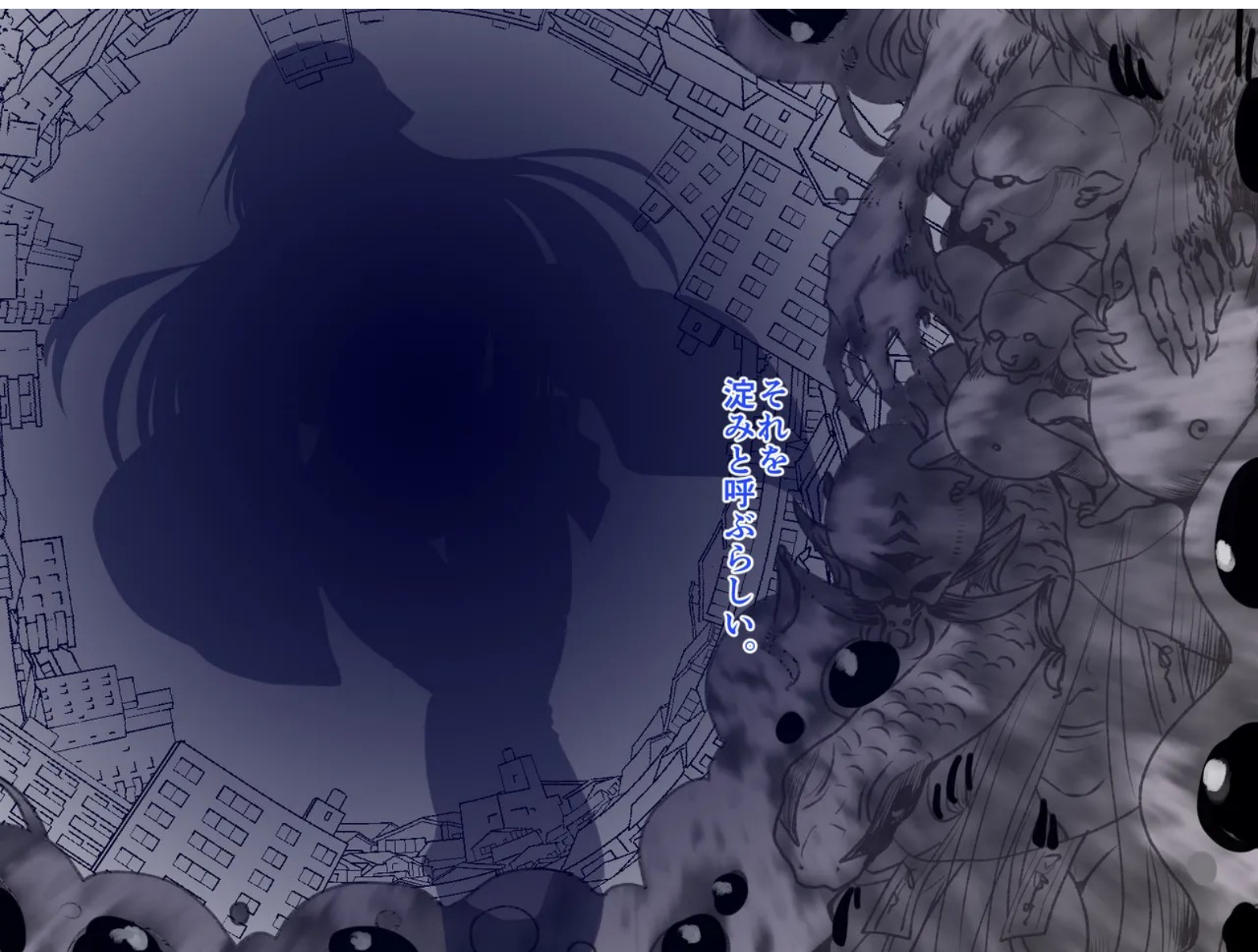
自分でやるんじゃないの？
こないだよりは
うまくできる…
と思う…

その言葉を信じたら
前回は出勤
できなかっただろう

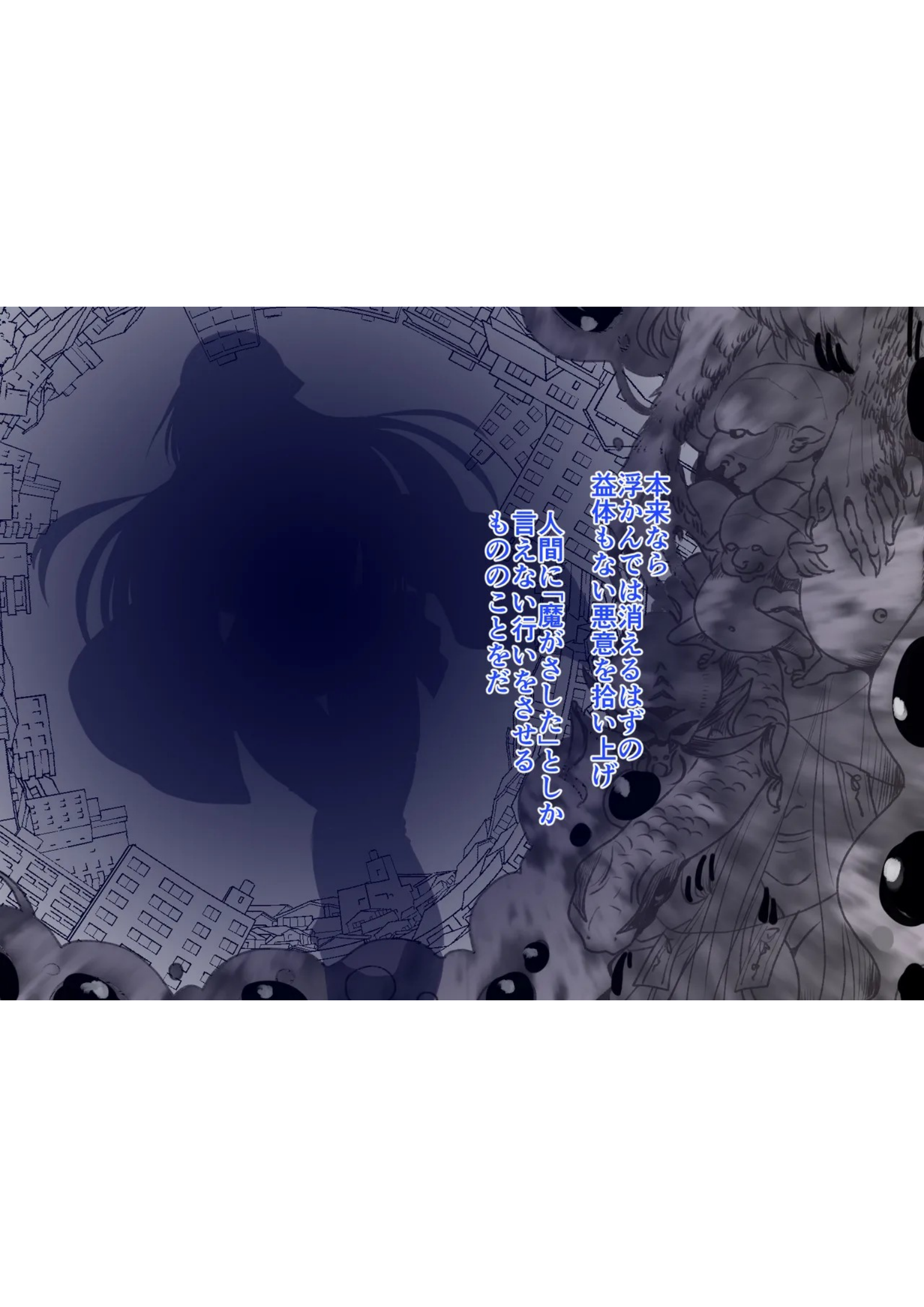
おっと

君への説明が
先だったね





それを
淀みと呼ぶらしい。



本来なら
浮かんで消えるはずの
益体もない悪意を拾い上げ
人間に「魔がさした」としか
言えない行いをさせる
もののことをだ

彼女は
そんな淀みに対抗しうる
力を持つ者の
一人であると。

俺の存在を思い出してくれた
猫兔の説明によると
そういうことらしかった。



更に力を与えたのは
私だ

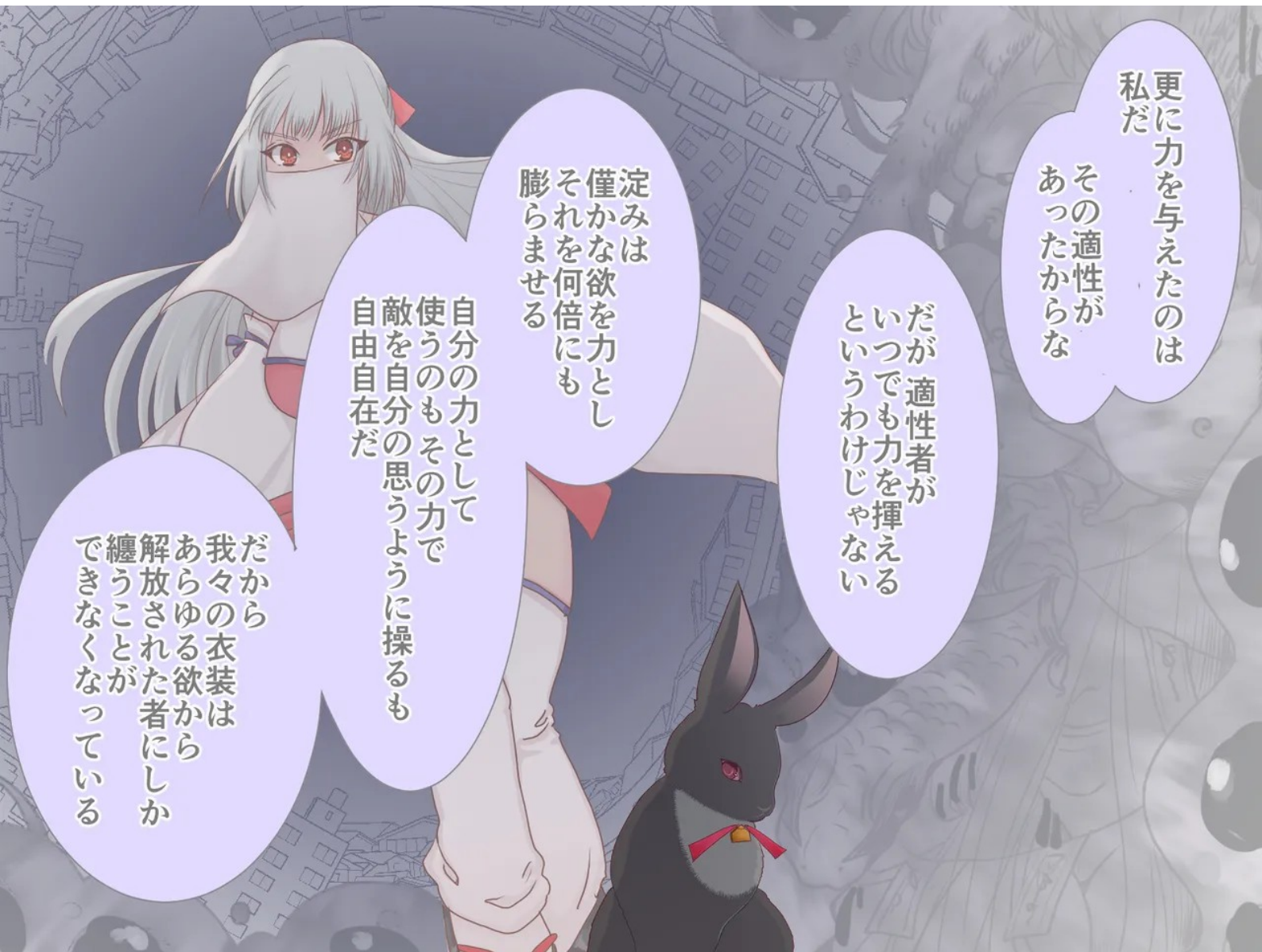
その適性が
あったからな

だが適性者が
いつでも力を揮える
というわけじゃない

淀みは
僅かな欲を力とし
それを何倍にも
膨らませる

自分の力として
使うのもその力で
敵を自分の思うように操るも
自由自在だ

だから
我々の衣装は
あらゆる欲から
解放された者にしか
纏うことが
できなくなっている



あらゆる欲から。
食欲睡眠欲、
名誉欲金銭欲
そして――性欲。

性欲……？

……



そのせいで前回更には
敵と対峙することが
できなかった

幸い淀みの規模は
それほどでなく
他の仲間が対処に当たったが
次もそうとは限らない

そこで私が手を打ったんだ

急に月城の髪の色が
変わったのが…そうか？



そう
それだよ

力を得てから
更の髪は白に近い
灰色になっているが

いつも通りに見えるよう
術をかけていたんだ

その術を少しだけ
緩めてみた
更と波長の合う人間にだけ
灰色とわかるくらいの
強さにね

まあ緩めた
当日に見つかるとは
思ってたなかったが…

桃色がかったているのが
見えるだろう？

ああ…

それが更の変身を
妨げている欲の色だ

その欲を解放させて
やって欲しい

波長が合うということとは
他の誰かより
それを容易にできるはずなんだ

よ欲を解放って
何を…



手っ取り早く言うと
セックスして
ほしいんだ

はっ?!!??

待って…



まだ…
一人でできないって
決まったわけじゃ…

説明しているうちに
もうあと二十分だ

十分でやってみる

それで駄目だったら
高山くんをお願い
するから…



というわけで
すまないな高山
今日は遅刻だ

お俺が断ったら…？

他を探すさ
今回の出勤には
間に合わないが
仕方ない

だがこの街を救うためだ
できれば協力してくれると
ありがたい

どうせ毎日
発散してるんだらう？
日課が善行になるなんて
得だと思わないか

あんた
口悪いな

いや…
断らない、
けどさ



彼女と思いつきり
目を合わせてしまった。

自分の頬が熱を持つのが
はつきりわかった…。



で。

まずは月城が
「二人でやってみる」
ことにしたのだが…

トイレの個室からは
何の音も届かない。

あの…
俺が聞
いてるの
が嫌なら
廊下で待
機するけど

そこに
いて

あっ
はい

…ごめ
んね

張り詰めた空気の中
衣擦れらしき音が聞こえた。

だが、それだけだった。
長い沈黙の後、
猫兎がため息を吐く。

月城が息を呑む気配がした。



更
できないのなら…

……どうして

聞こえてきたのは
鼻をすする音だった。

猫兎の口調は
思いの外優しかった。
だからだったのかもしれない。



た戦わなきゃ
いけないのに…

自分でそれ
望んだくせに

ぐす

変身できないとか
…馬鹿みたい

何でこんなっ
わた私っ
性欲なんか…

ぐす

――





鍵のかけられていない
扉を押すと、
途方に暮れたような
顔をした月城と目が合った。



高山くん



そうだよ
性欲「なんか」だ

え…？

腹減ったって
食べるのや
眠くなつて寝るのと
同じくらい自然なことだ

この場でおかしいって言ったら
どう考えたって
欲があつちや変身できない
とかいうシステムのせいだ
月城のことじゃないだろ

だったら敵から欲を
隠すシステム？みたいな
出来そうなもんじゃねえか



それはこちらの
不徳のいたす所と
言うほかないな

猫兎が政治家みたいな口調で
援護射撃をした。

だから

月城がそんなふう
に自分を責めて泣く
必要なんて全然
ないんだよ…



相手が俺で
泣きたくなるのは
まあ仕方ないかも
だけどな

俺はなんかその
あれだ喋るバイブ
みたいなのと
思ってくれば…

…
…
…



ううん

高山くんで
: よかった



じゃ…じゃあ
胸元
開くけど…

…うん…



うおっ…

と危うく声が
出る所だった。
でかい…

思わずしげしげと
見つめてしまう。
人生初の生おっぱい
こんなにかくていいのか…

矢庭に緊張してきた。
誰かの胸を触るなんて
初めてだった。

猫兎は俺は
他の奴がするより
月城の欲を解放
させやすいと
言っていたが…

た高山くんも
緊張…してる？

あ、あの

…うん？

そりや
するだろ…

そっか…

ドクン
ドクン





いたっ…

思わず力一杯
握ってしまっていた。

あっ
ご…ごめん



優しく…
優しく…

なんだあれ
どこまでも
沈んでく
感覚だった…

さあ

さっきとは違い
表面を包むように
触れていく

っ……!

さっきの痛みで少し
怯えの入った月城の
身体が強張りがいく
だんだん抜けた。
のがわかった。



さわ
さわ
さわ

んっ

んっ

ずっと触っていたい……と
揉みしだいていると
抑えるような
くぐもった声が
漏れてきた。



そっと下にも
手を伸ばすと、
月城の身体が再び
強張った。

あっ……!!

無理そうなら
言ってくれな

う、うんっ
あ……

っ、あ

べしっ



はあ

ぐ

はあ

あつ
お、おと、
聞かな...でっ

中はもう
ぐちゃぐちゃに
濡れていて、水音は
隠しようもなくトイレに
響いた。

あつ

あつ

くちゃ
くちゃ
くちゃ



はな

だっダメ
あつ、
いやじゃなくてっ

はな

あつあ、

はな

あつ

!!!!

さあ
さあ
さあ

ぐちゃぐちゃ
ぐちゃぐちゃ
ぐちゃぐちゃ









かつ髪が…!!

あ…うん
もう変身できる
…みたい…

そっ
…そうか

重みがなくなった次の瞬間、
目の前に見慣れない服を着た
月城が立っていた。

更

さっきまで俺の膝の上に
いたとは思えないくらい
清楚な空気を纏っている。

そういえば
こいつもいたんだな…



変身できたんだ
すぐ発地点に
向かうぞ

え？
う、うん…

月城が俺を見た。
身体が触れ合っ
いたのだ、当然俺の股間が
どうなっていたのか
見なくてもわかって
いただろう。

…よかったな
月城

そして早く一人に
して欲しい、との
気持ちを入れて頷いた。

…うん

じゃあ、
ちよつと
ごめんね！

えっ？



月城が便座に
座ったままの
俺の前に跪いた…
と、思ったら手早く
チャックに手を
伸ばしていた。

そのためらいのなさに
俺は抵抗する間もなく
昂った隠部を
曝け出していた。



いきなりごめんね

あ…あまり
時間ないし
上手くできるか
自信ないけど

これでお礼に
なるかな…?

うわっ…!?

言って、月城は
ぎこちなくそれを
上下させた。



大丈夫？
痛くない？

くっ…きつ…
気持ちいいです…

良かった…

それは全く
単調な上下運動だったが、
初めて人に触られるからか
それとも猫兔の言っていた
「波長が合う」からなのか
異様に簡単に
上り詰めさせていた。





は、離れ...

えっ?

うっあっ
...そろそろ...

バババ



いっくっ

うあっ...!

びくびく

!

いっくっ

はあ…っ
ごめん…

私にも
高山くんを
気持ちよくできた？

とろっ

ああ…うん…
良かったよ

へへ…なんか
…嬉しいな



更

あっうん

そういえば
こいつもいたんだな…



高山くん：
ありがとね

うん？いや
こちらこそ
っていうか

うん…

その…
あのね…

？



…なんでもない！

言って、月城は
にっこりと
音のしそうな
笑顔を見せた。



次の瞬間、
月城の身体は既に
トイレの窓の向こうにあった

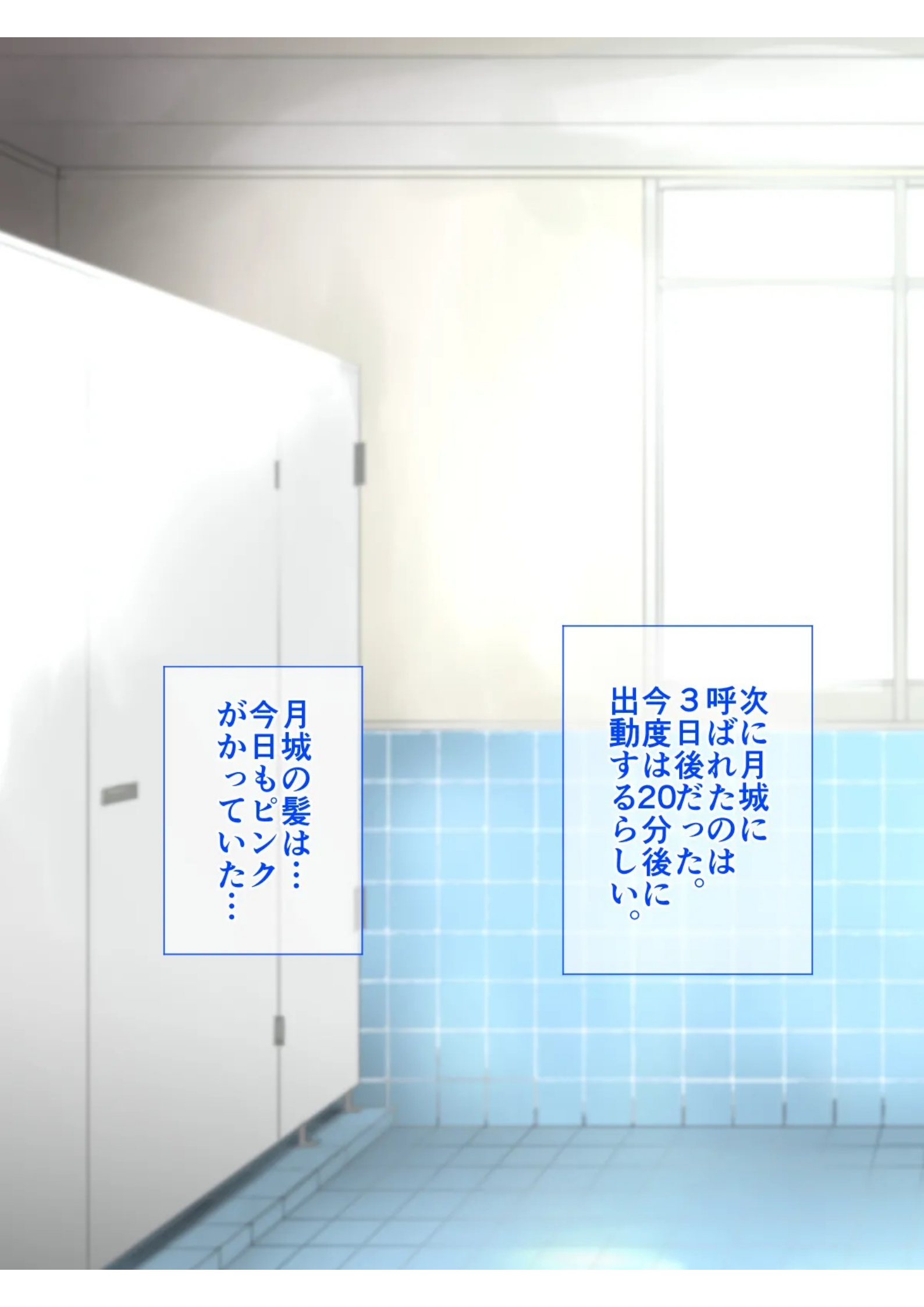
…また
機会があったら
頼むよ

猫兎もそう言い残して、
窓をひよいと
飛び越えた。
ここは3階なのだが…



また…か…

…



月城の髪は…
今日もピンク
がかっていた…

次に月城に
呼ばれたのは
3日後だった。
今日は20分後
に出勤するらしい。



うん

思ったんだけど

私がしてもらって、
終わって後で
高山くんを……
っていうのよりも

効率的な方法が
あ、あ、
あるんじゃないか
って

それは……
俺に異論は
ないけど……

……いいのか？

……うん

月城からそれを
言い出すとは。

その積極性に
にやけそうになる
顔をグッと堪える。



じゃあ、と言って
月城はブレザーと
下を脱ぎ始める。

うおっ…

と危うく声が
出る所だった。
でかい…

思わずしげしげと
見つめてしまう。
人生初の生尻が
こんなにかくていいのか…

…このまま
座ればいい
のかな

あ、ああ
支えるから…
ゆっくり…

う…うん

よろしく?も
変だね…

ドキ
ドキ

ぐっ

っ…！

ダメだと思ったら
止めてな

だ、大丈夫
…だと思う

月城はそう言って
身体を沈み
込ませてきた。

ぽとっ

ぐちゃぐちゃ



んっ...

は、あ...
入っ...

すっ

すっ

途中何度か
止まりながら、
月城のそこは
俺のチンポを
飲み込んでいた。



あ…あは…
セックスだね
これ…

ガチ…

そ、そうだよ??

痛くないか?

大丈夫みたい…
さっきいっぱい
触ってくれたからかな…

は…
入ってるだけでも
気持ちいいって

んっ…

ぺくっ…

でも
そろそろ
動くね…

っ…!

ふんふん

くくく
悪い俺
ちよつと
我慢できない

えっ？
あつ駄目

そのまま下から
月城を
思うままに
突き上げる。

あつあつ

のちゅ
のちゅ
のちゅ
のちゅ



はっ
はっ

あっ
あっ 深...!

ううっ
めちやくちや
締め付けてくる...!

のちゃ
のちゃ
のちゃ



あっ
んっ
…

たかやまくん、
待っ
あ…

のちゅ
のちゅ
のちゅ
のちゅ



はあ
はあ

はあ
はあ

んっ
辛くないか
月城

気持ちいいよ
いいけどっ

あっ

わ、わたしが
んっ
高山くんを
気持ちよく
させてあげたかったのに

はあ
はあ



俺だって
気持ちいいし

もっと月城の
気持ちよがってる
所見たいよ

あつ
ダメえっ...!

む、胸
触られたら...!

くら
くら

のちゃ
のちゃ
のちゃ





くっ
月城…そろそろっ…

うん
ん
っ

くっくっくっ
ぐちゃっ
ぐちゃっ♡
ぐちゃっ♡







以前のような
光に包まれ
再び目の前に
変身した月城が
現れた。

...

…更

あっうん

そういえば
こいつもいたんだな…



じゃあ…いくね

ああ…
いってらっしゃい

うん！

言って月城は窓枠に
ふわりと飛び乗り、

盛大にバランスを崩した。

平気か！？

あ…あはは
テイク2
テイク2

何事もなかったように
三階の窓から
飛び降りる月城を
俺は見送った。



それから
一ヶ月。

月城は何度か
俺を呼び、
抱かれては
「出勤」していった。

つい昨日もだ。



はあっ…

ん…っ

いつもトイレだから
こうやって
じっくり見られるの
いいな

あ、
あんまり
見ないで…
欲しいな

でもいつもより
濡れてる感じ？

わ、わかんない、
あっ

くちくち



はあっ...

ね...もう
大丈夫だから

大丈夫だから?

っ...
いい入れて...?
高山くんの...

言葉だけでなく
求めるように
中が収縮し、
俺は生唾を飲み込んだ。

くちくち



んはあ…

おっ

ちゅっ





っ、ん、うあ、
ああんっ、あああっ

あまりにも早くイッてしまう、
と危惧するも、気がつく
と遠慮無くピストンを
繰り返していた。

月城の、いつものトイレ
じゃないからと抑えていた
声もどんどん大きくな
っている。

は
ち
ゃ

は
ち
ゃ
は
ち
ゃ
は
ち
ゃ



はあはあ

ん…好きっ
あっあっ

イツちゃう
よおっ…!

！
くっ、
お、俺ももうっ…

はあ
はあ

はあ
はあ
はあ





はな

はな

はな

ふーっ

.....

...さつき
月城...
「好き」って...

とろおっ...



次は…
できれば

くっついて
したいな

あ！
ああ、

次な…

ピンクの光に
包まれながら
月城はそう言った。



おっ

あの『好き』
はやっぱり…









月城と目が合い、
笑みを交わした瞬間だった。
仄かにその髪がピンクに色づいた。

つまり…

俺を見て、
やりたくなった
ってことだよな…

……

ゆるみきった
顔をしているね

うわっ
いたのか

そして今は
ゆるみきった顔で
見えない何かに
話しかける
怪しい存在に格上げだ

わかってるなら
人前で
話しかけるなよ…

これは日々正義の味方への
協力に励む
高山くんへの忠告だ
返事はしなくていいぞ
怪しいからな

…???



髪の桃色が
更の変身を妨げている
欲を表していると言ったね

あれは何も
性欲に限った
話じゃないぞ

あまり入れ込むな
――お互いのためにも

⋮

問いかけようと
口を開くが、
猫兎はもう
いなくなっていた。

その日の放課後。

俺は猫兎に呼ばれ
見慣れたはずの
道を歩いていた…

…なんだこれ
今朝通った時は
こんなめちゃくちゃに
なんて…

こっちだ





！
月城……！

あれ

高山くんだ

俺に気づいた月城は、
嬉しそうに微笑んだが、
その左半身は真っ赤に
染まっていた。

月城

大丈夫か！？
なんで
こんなことに…

言っただろう
あらゆる欲が
変身を妨げると。
忠告もした





更

敵を封じた
結界は長くはもたない

さっさと引導を
渡してもらえ

...

月城…?
引導って…

…戦ってる最中にね
思い出したの

こっち高山くんの家の
方角だなんて

じゃあ絶対敵を逃さないように
しないと…って
高山くんの家だけは…って

そしたら急に
力が抜けて…

そういうのも「欲」に
カウントされるんだって
…知らなくて



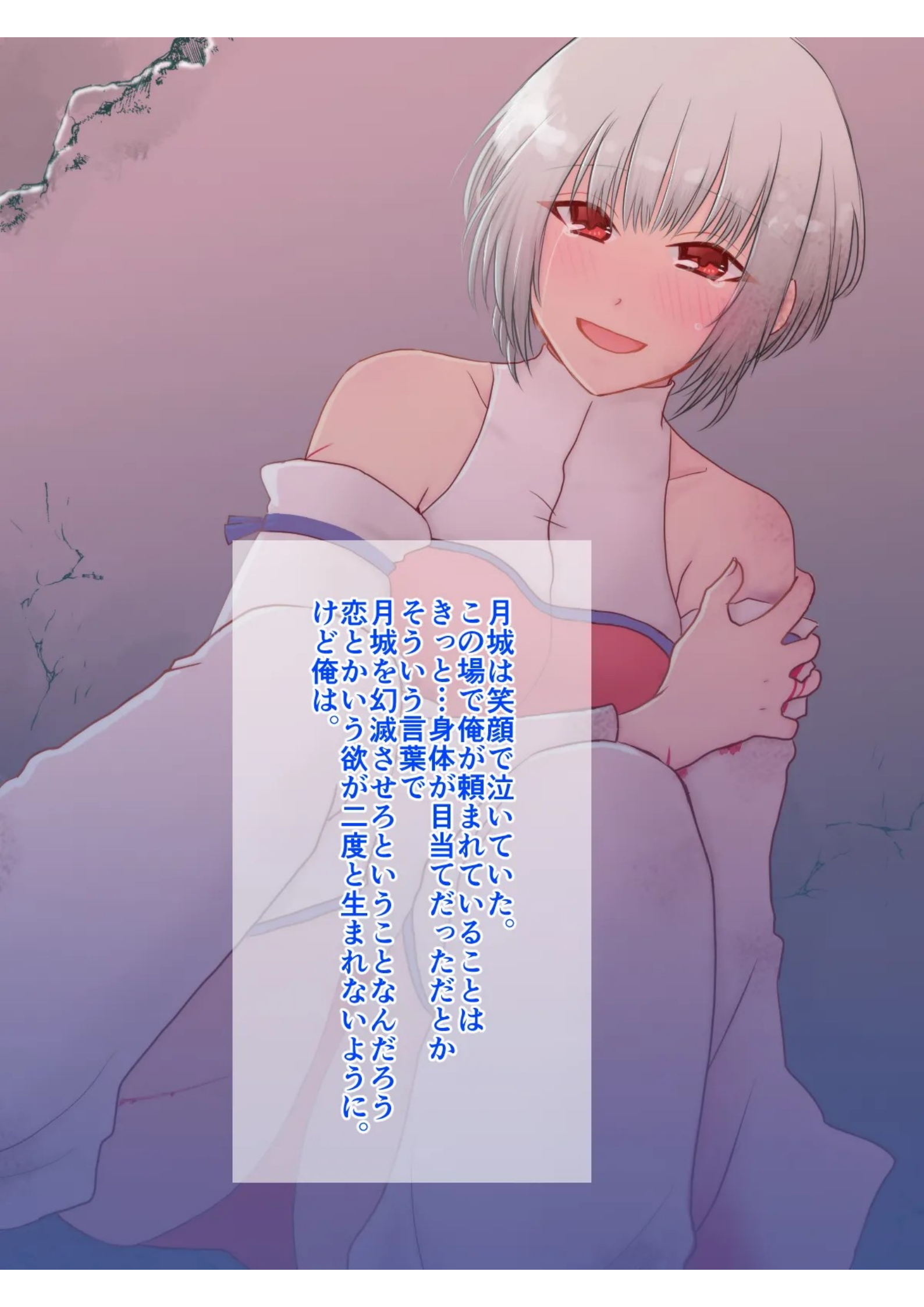
私

守りたいと思ったのに
それが逆にみんなを
：高山くんを
危険な目に遭わせて
しまうかもしれない
なんて……

だから
高山くん

もう二度と
こんなことに
ならないように
私の気持ちを
徹底的に殺して欲しい

お願い
自分では
できそうに……なくて



月城は笑顔で泣いていた。
この場で俺が頼まれていることは
きつと…身体が目当てだったとか
そういう言葉で
月城を幻滅させるということなんだろう
恋とかいう欲が二度と生まれないうに。
けど俺は。



…うん、

……
わかった
……





もう二度と戦闘中に
俺を思い出さないで
済むように今のうちに
思う存分俺のことだけ
考えさせればいいんだな!?

違ち
違ち
!!

高山くん!!!???



それ以外は駄目だ

俺から好きな子に
できるのは
それだけだ

高山くん…

俺はめっちゃくちゃ
自分勝手だから
したいように
させてもらう

何度も唇を
合わせながら
愛撫を始める



と言った。

ありがとう

ひどい話だ。
勝手な話だと思う。
だが、月城は俺に



…入れるぞ
月城、
怪我は…

大丈夫
大丈夫だよ…

言いながら
足を絡ませくる。

それに促され、俺は
身体を進めた。



：けど、
思う存分
俺のことだけ
考えさせるって
言っても

いつも通りのことしか
できないんですが…

冷静になった…

なっなるよ
そりゃ

いつも通りで
お願いします

：いつも、
気持ちいい、から

うん…



っ...

っあ...

はあっ...
きっつ...

動くぞ
月城...

うん...
きて...

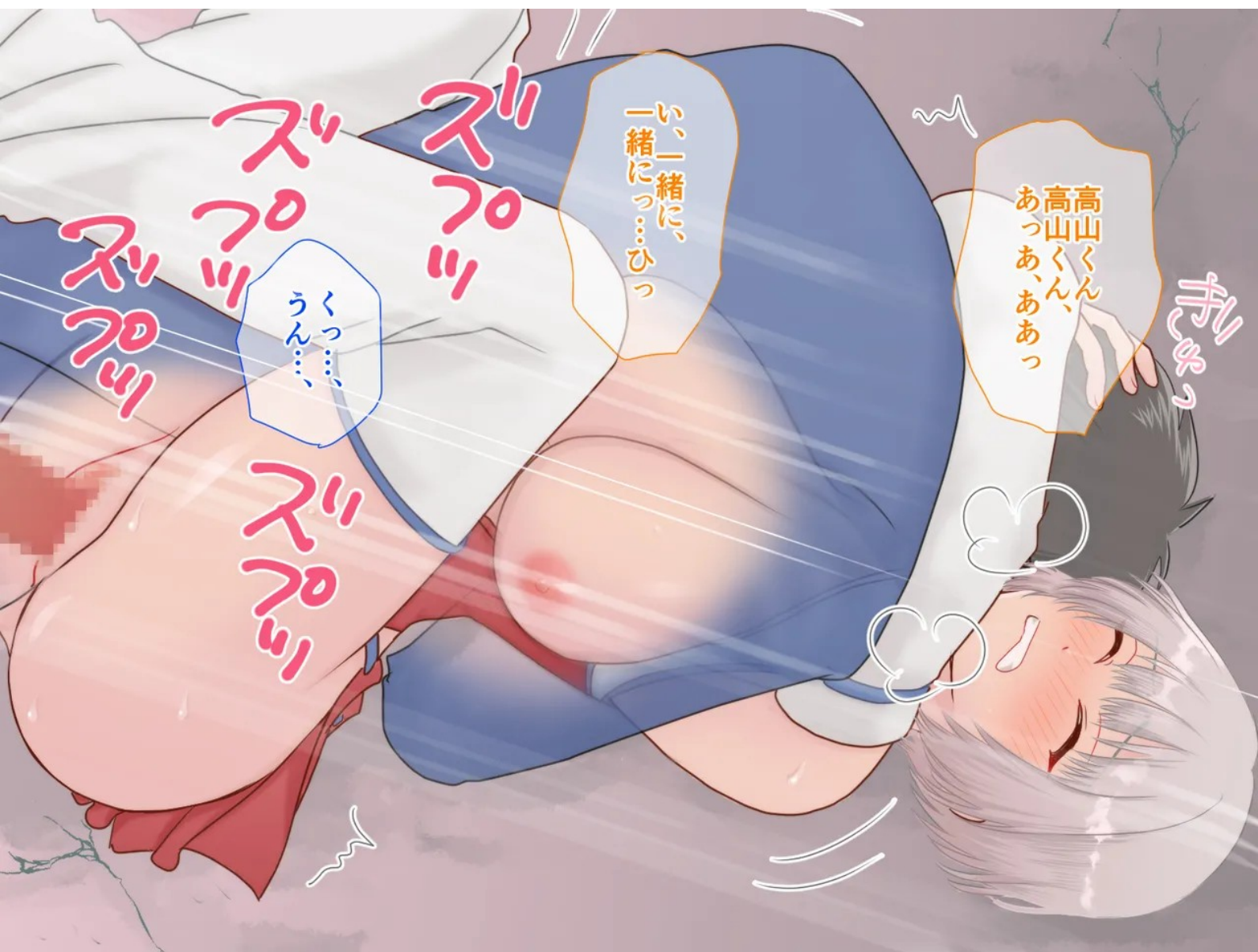
ぐちゃ...



は…
あつあつ…

いつもの…
これ、
好き、
すきいっ





高山くん、
あっあ、ああっ

いい一緒に、
一緒にっ…ひっ

くっ…
うん…

ズッ
ズッ
ズッ
ズッ

ズッ
ズッ
ズッ

おれ





はあ
んっ...

キス、
気持ちいいね

はあ

はあ

ああ

好きな人と
だからかな

そうだな...

はあ

好きな人以外とでも
きもちいいのか

ずっと知らなくても
...いいや

はあ...

The background is a dimly lit room. On the left, there is a bed with a blue blanket. In the center, a large window is covered with light-colored curtains. To the right, there is a desk and a bookshelf filled with books. The overall atmosphere is quiet and somewhat somber.

月城は再び力を取り戻し
敵との戦いに戻った。
敵は減ることはあっても
完全になくなることはない
と、猫兎は言った。
月城も、自分が必要と
されている間は
続けていきたいとも。

俺の生活はあまり変わらない。
変わったことといえば、

：6時か



…んあ？



えっつ…
月城!?

開けてくれて
ありがとう

今日は普通に
変身出来て
戦ってきたんだけど

高山くん家
近くなって
思ってたよ
寄ってみたよ

：起こしちゃった？

いや…

ここ2階だけだな…



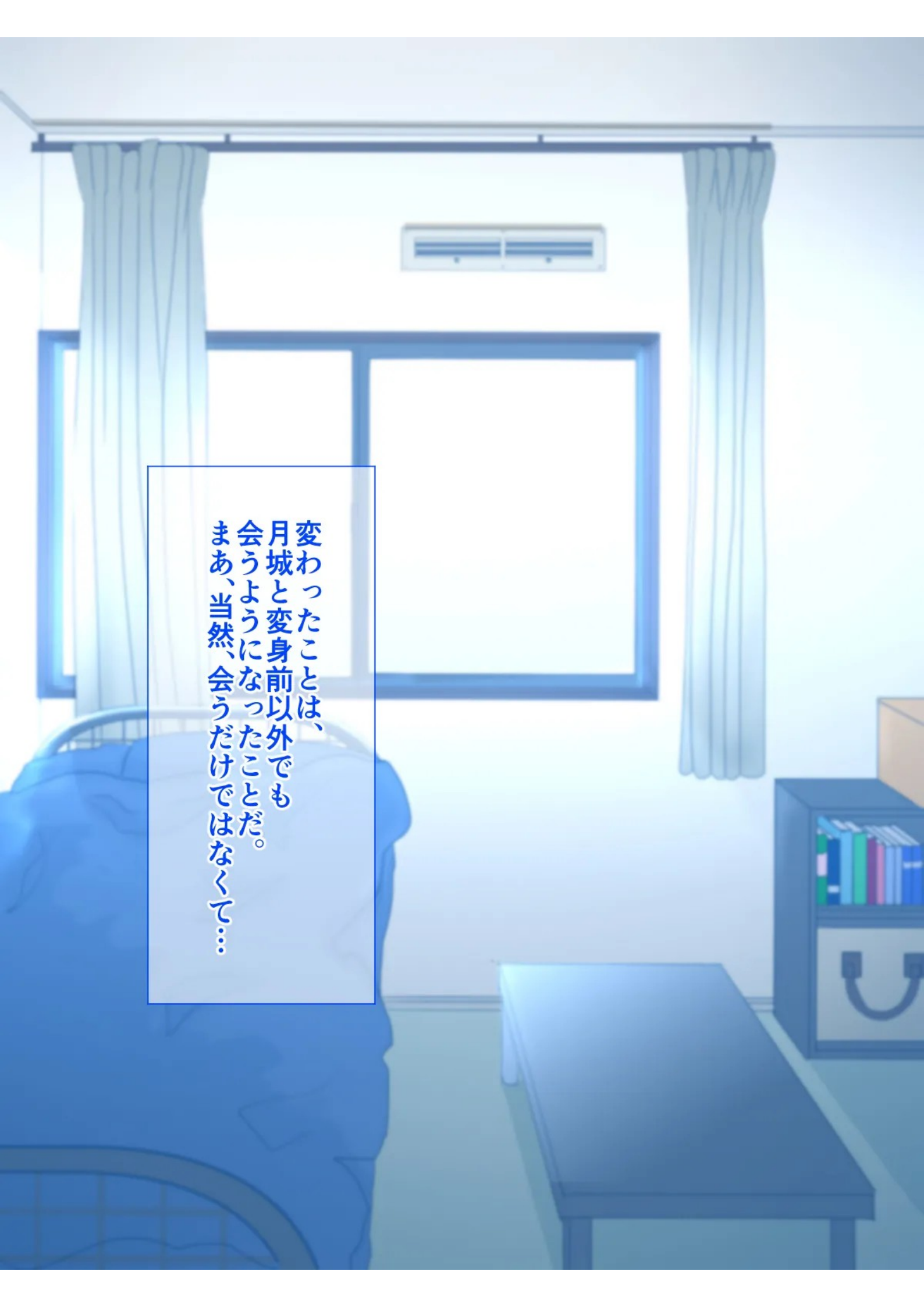
：

高山くん
寝起きて感じ

そりゃ
そーだよ

：なんか
新鮮だね

月城の長い髪に手を伸ばす。

A bedroom scene with a window, curtains, a bed, a desk, and a bookshelf. The room is dimly lit, with light coming from the window. The window has a white frame and a small air conditioner unit above it. The curtains are light blue. The bed is on the left, with a blue blanket. The desk is on the right, with a blue surface. The bookshelf is on the right, with several books. The text is in a white box on the left side of the image.

変わったことは、
月城と変身前以外でも
会うようになったことだ。
まあ、当然、会うだけではなくて…

折角だから
変身が解ける前に
パイズリをお願いしてみた

こんな感じ？

うおすげー
質量…

ちんこがずっと
ここにいたがってる

それはちょっと
困るなあ





早くご退去
いただかないと…
こうかな？

うあっ…
それいい
そのままもっと
おっぱい
押し付けて欲しい

うんっ…

うんっ…



へへ…
なんか
可愛い
かね

あつ
それ
いい
気持ち
いい

いける？
いけそう？

うん…
うん…





いっへ
ぱい出たね

っあ…ちよ…

ど
ぢゃ

ど
ぢゃ

いい
いい

満足した？

うん…
いや、入りたい…

そっかあ…
嬉しいな



立ち上がる月城の
手を引くと、そのまま
俺の身体に跨った。

ドキ
ドキ

：けっこう
新鮮な眺め

ね…
入れるね…

うん…
っ…

く
ぶ、
ぶ、
っ
…

全然触ってないそこは、
俺をゆっくり飲み込み、
全体で締め付けてくる。

こうしたら
気持ちいいかな？

ぐっ…
うあ…それ
続けてほし

んっ…
んっ…
んっ…

ぬち
ぬち
ぬち
ぬち
ぬち

んっ…

全体を包むかと思えば
浅く飲み込み
カリだけを刺激してくる。

朝の健康的な光に
照らされたその動きは
一層煽情的だ。

っ、トイレで
半泣きだった
頃とえらい
違いだな

へへ…それ高山くんの
せいだからね

俺の？

うん

あのとき、
性欲があるのはおかしくないうって
…言ってくれたから

あのときから
私………

にゅにゅ

……

だから責任取って
ぜんぶ受け止めて、ね

んんっ……
んあ……



そのとき、
スイッチを切り替えたように
あっさり月城の変身が解けた。

あっ……？？

えっ
あ……え？
なんで裸……

そ、そっか
朝着替えてる途中で
呼び出されて、
そのまま出勤したから…

か
あ
あ
あ
あ…

言いながらも
どんどん赤く
なっている。

…今更
照れるかあ？

だって
初めて見られたし
…裸…

あ、あの
服…着てから
また…んあっ!?

っ悪い、ちよつと
それ無理

あっ
あう

その照れる仕草に
煽られ、
制止も聞かずに
突き上げる。

んあ…ああ
だめえ

言いながら、
離れるのでなく
縋るようにな
手を握るので、
俺は容赦なく
腰を振り続けた。

ずん

はちゅっ
はちゅっ
はちゅっ
はちゅっ



あっあっ
んああ

ぱちゅ
ぱちゅ
ぱちゅ

気持ちいい？

あっ

よすぎて
へんに
なるっ

んんん
んんん
んんん



ひっ...うん
ああっ

くうっ...!
で出る...!

ぱちゅっ
ぱちゅっ
ぱちゅっ
ぱちゅっ
ぱちゅっ

あ、な、中は
なかはっ...!





.....っ

悪い...
中出し...

.....♡

はあ

はあ

はあ

てんてん

ことが済み、
月城はシャワーを
浴びに行った。

ホッ
ッ
ッ

でもほんと
性欲強めな感じ
だよな
月城って…

まあそれは
仕方がないな

おまっ
いるなら
いるって…

…何が仕方ないって？

更に力を貸したのは
私だからな
兎は性欲が強い

え？え？
待ってじゃあ



性欲強くした上で
性欲があると変身できない服で
戦わせてるってことか?..?

そういうことにな
るな

いやなんだそれ

シャワー
ありがとう
? どうかした?

な...なんか
力が抜けて...





うお...彼シャツ...

あ...

?

彼なら、私は
彼女なのかなって

えっ
俺はそのつもり
でしたが

そうでしたか

そうですよ





そっかあ…

そうして、月城は
今日一番の
笑顔を浮かべたのだった。



おしま























